

予報期間 7月7日から7月13日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第3号と第4号については最新の台風予報を参照。
- 9日から11日にかけて、高気圧がアムール川下流付近から千島近海に移動する。
- 期間を通して、高気圧が北日本から黄海付近を覆い、日本の南から東シナ海にかけて気圧の谷となる日が続く。

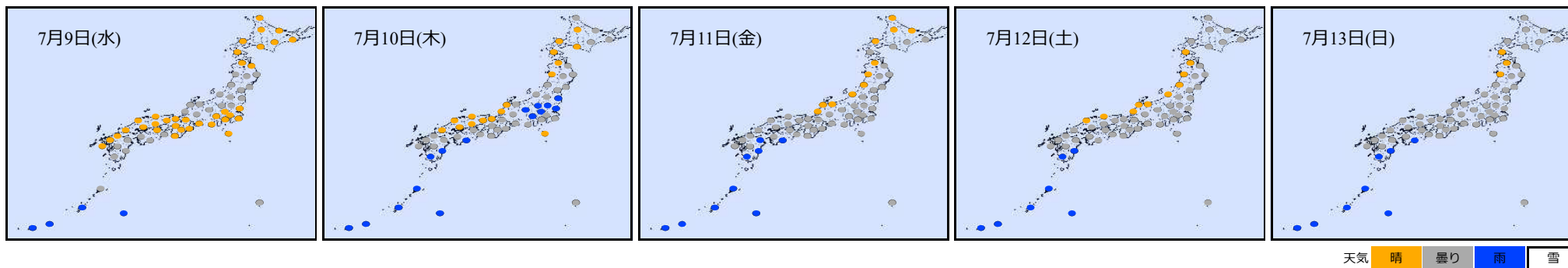
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 全国的に気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

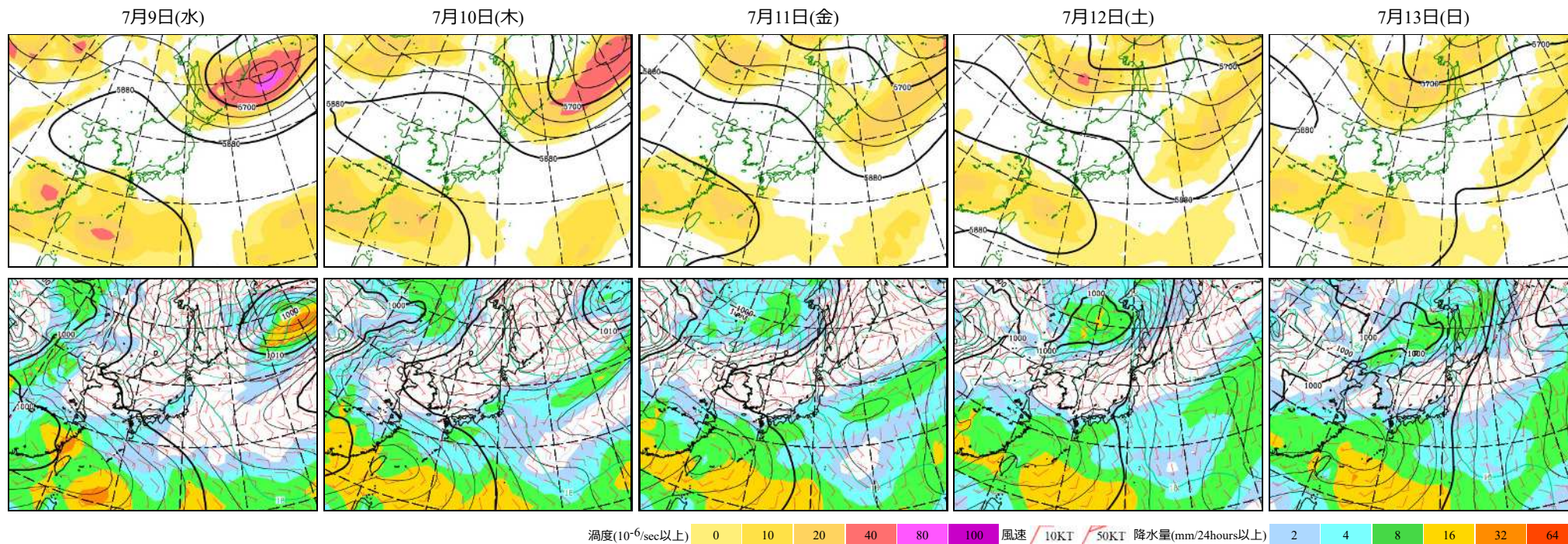
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

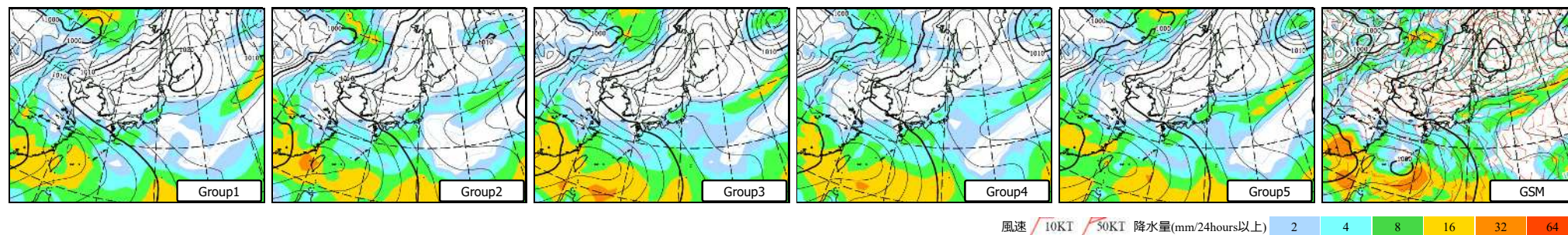


- 北日本は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 東日本と西日本は、晴れる所もあるが、雲が広がりやすく雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月10日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、9日から11日にかけて日本の東でトラフが深まる予想になった。地上の気圧配置の予想は、10日から11日にかけてオホーツク海から千島近海に移動する高気圧が明瞭になり、日本のはるか東の高気圧の西への張り出しは弱くなった。
- ENSとGSM、ECMは、9日から11日にかけて日本の東でトラフが深まる予想になり、オホーツク海の高気圧が明瞭に予想されるようになった。各モデルともおおむね北日本から日本海、黄海にかけて高気圧に覆われ、日本の南から東シナ海が気圧の谷になる予想は一致している。
- 10日は、沖縄付近に低気圧を予想するモデルもあるが、ENSは沖縄よりも南西側に低気圧を予想するメンバーが多い。低気圧が発達する予想をするメンバーは僅か。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。